

# 1. 評価報告概要表

作成日 平成20年6月15日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1174500973
法人名	医療法人明和会
事業所名	おぶすまの里
所在地	〒369-1215 埼玉県大里郡寄居町牟礼1510 (電話) 048-582-5577

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年6月9日

【情報提供票より】(平成19年12月21日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤 12人, 非常勤 9人, 常勤換算	14.0人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り 1階建ての1階部分
------	---------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 ~ 50,000 円	その他の経費(月額)	22,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	400 円	昼食 350 円
	夕食	500 円	おやつ 0 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要(12月21日現在)

利用者人数	14 名	男性	3 名	女性	11 名
要介護1	4 名	要介護2	2 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 79 歳	最低	58 歳	最高	93 歳

### (5) 協力医療機関


協力医療機関名	おぶすま診療所、清水歯科医院
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設者は昭和56年に診療所を開設して以来、地域に必要な医療や介護の充実に取り組み、診療所で不足なサービスを提供する場としてデイサービスやショートステイなどを設置してきた。地域のニーズに合わせて平成16年にはデイサービスにグループホームを併設、さらに平成19年に新館を開設し2ユニットのホームとして運営している。ホームは自然豊かな環境に恵まれ、保育園児とさつまいも掘りをしたり、小学生が野菜を届けてくれることもある。利用者は地域との交流を深めながら暮らしており、地域に密着したグループホームの機能が発揮されている。重度化した場合や終末期のあり方については、設置者の医師が中心となり、本人、家族と話し合い、必要に応じて最期までの看取りを行っている。職員の定着率は高く、利用者一人ひとりの思いを汲み取り、持っている力が発揮されるよう努めている。

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価での課題であった、洗剤などの保管場所は、利用者の手が届きにくい場所に定位置を変更した。また、個々の生活歴を把握し、個別性を重視したケアの実践に活かせる記録になるよう、研修に参加したり職員で話し合いを行い、記録の書式を改善している。さらに、「おぶすまの里便り」を月1回発行し、利用者の暮らしぶりやホームの行事などを広報している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者と主任が中心になり自己評価の意義や内容を職員に伝え、職員の意見を聞きながらまとめた。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は概ね2か月に1回開催している。会議のメンバーは、利用者や家族、ボランティア、理事長、管理者、職員で構成されている。会議では、ホームで実施している行事や、サービス評価の結果などについての報告、話し合いが行われている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族来訪時には利用者の状況を伝え、家族の意見を聞くようにしている。ホーム入り口には意見箱が設置されているが意見や苦情はほとんど聞かれない。新年会には家族にも参加を呼びかけ、家族が意見を出しやすい雰囲気作りに努めている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>利用者は地元の老人会での大正琴の披露、産業祭への利用者手作りの作品の出版、保育園児とのさつまいも掘り、小学校の運動会の見学などを楽しんでいる。ふれあい祭りでは職員がバザーの手伝いをするなど、地域行事への参加に努め交流を深めている。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域でその人らしく暮らし続けられるために、「利用者の方々一人ひとりを個人として大事にし、安心して安全な生活が送れるよう努めます」という理念が作られている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はパンフレットに記載され、ホーム内にも掲示されている。職員採用時には必ず理念が記載された書類を渡し説明している。しかし、理念を掘り下げた話し合いや理念を具体的なケアに活かす日々の取り組みは十分ではない。		ミーティングや月1回の会議などを活用し、理念を掘り下げて職員全員で話し合うことが望まれる。また、日々の実践の振り返りでは、理念に基づいた実践になるような取り組みが期待される。
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の老人会で大正琴を披露したり、保育園児と一緒にさつまいも掘りをしたりしている。小学校の運動会やみこし祭りの見学、産業祭への出展、ふれあい祭りにおけるパザーの手伝いなど、地域の行事に参加して交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者と主任が中心になり職員全員で自己評価に取り組んだ。前回の外部評価の課題について取り組んだ結果、「おぶすまの里便り」を月1回発行し、洗剤は利用者の手の届きにくい場所に定位置を変更した。また、個別性のあるケアに活かせるような記録の改善などに取り組んでいる。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回を目標に運営推進会議を開催している。会議のメンバーは利用者と家族、ボランティア、理事長、管理者、職員で構成されている。会議ではホームの行事やサービス評価の結果を報告し話し合っている。		運営推進会議の参加メンバーとして、地域の代表者や行政の職員など、より幅広い立場の人が参加するよう積極的な呼びかけが望まれる。会議では率直な意見を引き出し、改善に向けた具体的な取り組みにつなげ、地域の理解と支援を得るための貴重な機会となることが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの空き状況などの情報は定期的に報告している。その他、町の担当者と行き来する機会は特別ない。		町の担当者にホームでの取り組みや課題などの情報を提供したり、研修場所として提供するなど、より連携を強化する取り組みが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回「おぶすまの里便り」を発行し、ホームの行事や利用者の暮らしぶりを伝えている。健康状態の変化などは電話などによりきめ細かな報告をしている。また、家族等が来訪した時は、金銭出納状況や利用者の状況を直接報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の来訪の機会に家族の意見を聞くようにするとともに、ホームの入り口には意見箱を設置している。新年会には家族の参加を呼びかけ、家族が意見を出しやすいように努めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動、離職が非常に少ない。併設するデイサービスの職員との人事交流、相互支援をする場合もあるが、デイサービスでの行事に日常的に参加し、職員とも馴染みになっているため、利用者へのダメージはほとんどない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営規程に、採用時研修は採用後3ヶ月以内、継続研修は年1回以上と明示されており、実践されている。外部研修に参加した場合は、研修報告書や会議で報告し、情報の共有に努めている。また、今年度は内部研修にも力を入れる努力をしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在同業者と交流する機会はほとんどない状況である。		地域の同業者ネットワークを作り積極的に交流してケアに活かし、サービスの質の向上につなげていくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居にあたっては本人、家族との話し合いを行い本人が納得した上でサービスを開始している。デイサービスやショートステイを利用してから入居するケースが多く、馴染みながらのサービス利用になっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の身体状況や生活歴などを十分把握し、利用者の得意分野などが発揮されるように努め、利用者と一緒に過ごす中で、学びあい、支えあう関係を築いている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や日々の暮らしのなかで、利用者の思いを把握するよう努め、利用者の思いが適うような取り組みをしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時の情報や日頃の関わりの中から、本人や家族の思いを把握し、利用者がより良く暮らすための課題を明らかにして介護計画を作成している。本人の意向や身体的な状況など、個別性を反映させた具体的かつ実践可能な介護計画になっている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月ごとに見直しを行いケアプランを作成している。また、月1回の会議で話し合いを行う他、利用者の状態変化や状況に応じて随時見直しを行っている。話し合いの結果は申し送りノートなどに記載し職員への周知を図っているが、利用者の個人記録への記載が不十分である。家族とは入居時や面会時に話し合い情報交換をしているが、計画の見直しは職員のみで行うことが多い。		月1回程度は本人や家族の意向や状況を確認するとともに、職員が把握した情報や気づき、アイデアを取り入れた介護計画の見直しが望まれる。その他、適時、家族や関係者らが話し合う機会をつくり、その時々気づきや意見を反映させながら臨機応変に介護計画を変更していく工夫が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の要望により専門医への受診支援や家族の宿泊支援もしている。また、近隣の高齢者の状況に応じてショートステイやデイサービスが利用できるになっている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの設置者である医師により随時往診が行われている他、本人と家族の希望によりかかりつけ医への受診を支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については、ホームの設置者である医師が中心になり、本人や家族と話し合いを行い、その内容を全職員に周知して最期までの看取りを行っている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者はプライバシー保護の重要性について理解し、具体的な場面で職員の指導を行っている。職員は利用者の誇りやプライバシーを大切にされた対応をしており、個人情報に記載された記録類の管理にも留意している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居時や日々の暮らしの中で、その人らしい暮らしを把握し、一人ひとりの思いや希望が適うように努めている。また、デイサービスの行事への参加は、利用者の思いを尊重して本人が決定するように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食はデイサービスと一緒に業者の弁当を利用している。季節や行事などによるメニューの工夫もあり、利用者は毎日、複数のメニューから好みの物を選択している。職員は利用者と一緒にテーブルを囲み、必要な支援をしながら楽しい雰囲気づくりをしている。献立づくりから調理、片づけなど一連の作業に利用者が関わる機会は少ない。		食事に関する一連の作業に、利用者の力が発揮されるような取り組みが望まれる。デイサービスとの関係を考慮しつつ、グループホームで暮らす利用者の意志や気持ちをより引き出す支援になるような工夫が期待される。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	デイサービスの利用者との兼ね合いで入浴日や時間に制限はあるが、1対1でゆったりと入浴できるように心がけている。また、介護度の高い利用者の入浴はデイサービスのない土曜日に行くなどの工夫がある。		デイサービス利用者との兼ね合いも考慮しつつ、利用者の生活習慣やその時の希望を大切にされた支援の可能性について検討し実践していくことを期待する。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の得意分野で力が発揮されるように支援している。昼食の注文取り、テーブル拭き、食器の片づけなども職員の支援を受けて行っている。デイサービスの行事には自ら進んで参加し楽しんでおり、産業祭への出展のための制作や菜園での収穫など、多様な楽しみごとの場面がある。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望や天候により近隣を散策している。車椅子の方でも毎日ホーム前で外気浴をしている。その他、老人会で大正琴を披露したり、小学校の運動会を見学するなどの外出支援も行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず自由な暮らしを支援している。利用者の状況により、ドアの上部に簡単な鍵をかけ不慮の事故を防止する工夫がある。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回防災避難訓練を実施している。災害時のマニュアルを作成し、飲料水や非常用食品、医薬品、懐中電灯などの物品の準備もされている。また、夜間想定避難訓練も実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事摂取量の把握をし記録している。また、利用者の体調に応じた食事内容や食事形態をとり、必要に応じて介助している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の飾り付けは利用者の希望も聞いて行っている。壁には季節感のある貼り絵や利用者の書いた書などが貼られている。デイサービスでの声や音が気になる場合は新館に移動するなど、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた馴染みの家具や日用品、インテリアなどが持ち込まれ、本人が過ごしやすい居室になっている。		